

- 「BankART AIR 2017」がスタート!
- バンカースクール受講生募集!
- BankART LifeV ~観光
- 新刊情報、柳幸典カタログ第二巻完成!
「いかに戦争は描かれたか」発売
- 台北・横浜アーティスト交流事業報告
- インドネシア染色ワークショップ開催!

BankART NEWS Vol.10

発行: BankART1929
2017年4月17日発行



恒例のシェアスタジオプログラム

「BankART AIR 2017」がスタートしました。

2017年4月10日~6月20日、BankART Studio NYKに43組のアーティストが2ヶ月間入居。通常は展覧会・イベント会場のBankART Studio NYKがクリエイターの制作スタジオとして変身。全国から集まったアーティストの生きいきとした制作現場が生まれております。皆様のご来場をお待ちしております。

- 【ウェルカムパーティ】 4月15日[土] 19:00- 一般参加費500円
- 【アーティストトーク@pub】 4月22日[土]から毎週土曜 19:00-20:30
- 【オープンスタジオ】 6月9日[金]~6月18日[日] 11:00-19:00 入場無料
オープニングパーティ: 6月9日 19:00- 一般参加費500円



【BankART AIR 2017 参加アーティスト】

栗原麻緒、片岡純也+岩竹理恵、天草ミオ、窪田久美子、廖震平、桑波田謙、onomichi、苦野美亜、中村恩恵、高井啓光、間瀬拓人、陳亭君、尾山久之助、東地雄一郎、秋山直子、久保萌菜、ガブリエラ・マンガノ & シルヴァーナ・マンガノ、三田村龍伸、関川航平、牛島智子、坂間真実、石花会、藤浪美世、堀江和真、山田哲平、ジェシカ・フ、丸山純子、齊藤芳子、吉田ゆう、Conversation Space、安部治子+関直子+阿部剛士、リン・チャーチル、VIX、studio ChingDong、屋敷妙子、林佳文、中川沙綾香、ライトハウス、鈴木紗也香、中村厚子、岩村寛人、蓮輪友子、今裕子(順不同)

バンカースクール 2017年5-6月期+7-8月期 受講生募集!

BankART school 2017年5月~6月と7月~8月の講座の募集がはじまりました。是非みなさんご参加ください。



BankART schoolの概要
時間= 19:30~21:30
会場= BankART Studio NYKにて
料金= 1講座 15,000円
入学金 3,000円(初めての方のみ)

お申し込み方法
①受講したい講座名 ②お名前 ③ご住所 ④電話番号
⑤メールアドレスを、メール・FAX・電話のいずれかにてお知らせください。

お申し込み・お問い合わせ
BankART スクール事務局
school@bankart1929.com
TEL 045-663-2812 FAX 045-663-2813

5-6月 詳細は別刷りチラシ・HPにて

- 月|「美術館の読み方、楽しみ方」村田真+和田菜穂子
①5/15 ②5/22 ③5/29 ④6/5 ⑤6/12 ⑥6/19 ⑦6/26 ⑧7/3
- 火|「ダンス・クリエイションWS」中村恩恵
①5/16 ②5/23 ③5/30 ④6/6 ⑤6/27 ⑥7/11 ⑦7/18 ⑧7/25
- 水|「現代美術の世界/世界の現代美術」金澤毅
①5/17 ②5/24 ③5/31 ④6/7 ⑤6/14 ⑥6/21 ⑦6/28 ⑧7/5
- 木|「写真ワークショップ」榎橋朝子 ※この講座のみ全6回受講料¥12,000
①5/18 ②5/25 ③6/8 ④6/22 ⑤7/6 ⑥7/20
- 土| BankART AIR Artist Talk ※受講料無料要1ドリンクオーダー
①4/22 ②4/29 ③5/6 ④5/13 ⑤5/20 ⑥5/27 ⑦6/3 ⑧6/10 ⑨6/17

7-8月

- 月|「写真を語り合うタベ」鷹野隆大
①7/10 ②7/17 ③7/24 ④7/31 ⑤8/7 ⑥8/14 ⑦8/21 ⑧8/28
- 火|「美術史の解体と構築」加藤種男
①7/11 ②7/18 ③7/25 ④8/1 ⑤8/8 ⑥8/15 ⑦8/22 ⑧8/29
- 水|「ソロー、監獄、法の彼方」今福龍太
①7/12 ②7/19 ③7/26 ④8/2 ⑤8/9 ⑥8/16 ⑦8/23 ⑧8/30

連携講座「ヨコハマ海洋市民大学」5/18~3/22 隔週木曜 19:30-21:10
詳細はHP参照 <http://yokohamakaiyouniv.wixsite.com/kaiyo>

BankART出版より

「柳幸典~ Wondering Position」展 カタログ第二巻完成しました!

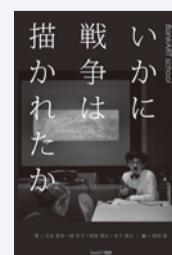
2016年の話題をさらった展覧会の第二巻が完成しました。8本の対談の収録もあり、編集に時間を要してしまいましたが、第一巻のアーカイブとセットで、柳氏のこれまでの活動と展覧会の様子がわかる丁寧な仕上がりとなっております。展覧会の際にご購入いただけなかった方も是非、バンカートや書店等で手にとってお買い求めください。
A4変形判 2冊セット 計352p/ ¥2,500 + 税 / 2017年3月30日発行
ISBN978-4-902736-42-7



「BankART school いかに戦争は描かれたか」発売!

BankART スクールで8回開催されたゼミの内容を収録したアグレッシブな書籍が誕生しました。

編: 村田真
著: 大谷省吾、林洋子、河田明久、木下直之
大谷省吾「東京国立近代美術館の戦争記録画とその周辺」、林洋子「藤田嗣治-二つの世界大戦を経て」、河田明久「明治の戦争と美術」「昭和の戦争と美術」、木下直之「戦争とモニュメント」「戦争とスペクタクル」
A5判 224p/ ¥1,200 + 税 / 2017年4月30日発行
ISBN978-4-902736-43-4



BankART Life V ~ 観光

今年も横浜トリエンナーレと連動(共通チケット)しつつ、独立したプログラムを展開する。タイトルは「BankART Life V ~ 観光」。「観光」という言葉は、「普段生活をしている場所から離れ、見聞を増やし、勉強すること」という意はもとより、語源として『易経』の一節、「国の光を観る」に遡ることができる。「観光=光を観る」とは何か? この本来の意からすると、遠くに旅をしなくても普通に暮らしているフィールドを少し逸脱して、新しいものや不思議や真実の発見をしていくことも、観光と呼んでもよさそうである。

「近くにあるのに気づかない、あるいは、遠くに思える存在、あるいは遠ざけていて近づかない。」このプロジェクトは、そんな場所と人に積極的に関わっていくことで、新しい時空を生成させていくことがテーマである。

観光の起点、BankART Studio NYKは、海原と花畑からなる大いなる原っぱ(ポイド)に浮かぶ島群からなる風景で構成される。観客は光の充満した島々をゆっくりと巡り、光の中の鳥や文字や少女と戯れる。

NYKの河岸と水上には動物たちがポツネンと存在する楽園が生まれる。

そして、パートナーチームである黄金町につながる実際の街場を往くプログラムもある。



台北・横浜アーティスト交流プログラム2016年度

周代焯(チョウ・タイシュン)「Back To」開催!

台北市・横浜市アーティスト交流プログラムで、1月から3ヶ月間、BankART Studio NYKのスタジオ内で制作を続けてきた周代焯(チョウ・タイシュン)氏の滞在成果の発表となる展覧会「Back To」展を開催しました。

「Back To」とは、我々はどこから来てどこへ行くのかという具体的・地理的な「場」と、後戻りできない時の流れの中で、人々が心の中で帰りたいと願うような抽象的・心理的な「場」を意味しているとのこと。会場に並ぶ非現実でSFチックなイメージ群からは、見ていく中で、過去の災害、自分が立ち会っていない現実、恐れまたは願う未来を偶有的に思い巡らされます。

初日のオープニングパーティには、レジデンス期間でできた友人、創造界隈のアーティストなどがたくさん駆けつけてくれました。



左:周代焯氏 右:通訳してくださった青井亭菲氏



インドネシアに現在も生きる伝統的な染織の技法を使った 子供向けのワークショップ開催!

第50回アジア開発銀行年次総会横浜開催連携事業

「藍染パティックをつくろう」2017年3月18日+25日、3月19日+26日

横浜の街の中からピックアップした親しみのある「かたち」をテーマにデザイン化し、実際に子供たちの手で染める作業を行いながら、表情豊かなパティック(ジャワ更紗)として仕上げていく。最終日には完成品を使った食事会等を開催。若いクリエイター山本愛子がチューターを務めた。【以下山本のレポート】

4日間にわたり、「藍染めパティックをつくろう」ワークショップを開催。インドネシアのジャワ島ジョグジャカルタから、パティックの先生アリフ氏を迎えてのワークショップ。現地で使われている染色の道具や素材たちを持ってきてくれた。

1日目:「パティック」について、アリフ氏から参加者に向けて丁寧に指導。参加者は、実際に布にデザインするところから、藍に染めるところまでを体験。子供達からは、楽しかった、思ったより難しかった、など様々な感想が飛び交った。母親たちも、各々の創作に集中していた。

2日目:参加者が各自、家からもってきた古着やいらなくなった布、無地の洋服などを持ち寄り、自由に染めてリメイクしなおした。皆、慣れてきたのか先週以上に手の動きが活き活きしていた。教えずとも次々と染めていき、空間は徐々に色や模様染まっていった。捨てようと思っていた布や古着たちが蘇る光景に、皆、嬉しそう。

アリフ氏は、「今回、はじめて本物の桜を日本の街中でみる事ができた。写真で見て憧れていた桜を使って、皆と一緒に布を染める事ができたことが嬉しかった。インドネシアの藍と日本の桜が、一枚の布の上で共存した共同制作は、素晴らしいコラボレーションになったと思います。」と皆の前で感想を述べてくれた。参加者にとっては、はじめてのインドネシアの植物や技法との出会い。それぞれの出会いをとおして、皆で新しい経験の場を共有できたのではないかと。



台北・横浜アーティスト交流プログラム2016年度

片岡純也 + 岩竹理恵 TAV滞在レポート



横浜台北交流事業で台北のTAV(台北アーティストビレッジ)に1/5から約3ヶ月間滞在制作した片岡純也+岩竹理恵のお二人の滞在レポート。途中、韓国でのビエンナーレ出品なども急遽決まり、活発に活躍された様子が伝わってきます。



キム・ソンヨン氏と

『ピョンチャンビエンナーレに参加するために1月28日から2月4日まで韓国のカンヌンに滞在し、作品の設置をしてオープニングを迎えた。ディレクターのキム・ソンヨン氏をはじめスタッフのご尽力により最初から最後まで作品展示に専念することができた。テーマに沿った作品が集まっているからか、共感できる作品や意気投合したアーティストとの出会いもあり励みや刺激を受けた。自分たちの作品の展開や今後の課題も見つかった。

ビエンナーレに参加することになったきっかけは昨年の台北での出会いだった。Taipei Artist Village (TAV) 主催による「ON SITE ARTFEST」が昨年9月に台北エキスポドームで開催された。このイベントはアジアのアートスペースの紹介・交流を目的としていて、台湾各地、中国、韓国、日本、フィリピン、インドネシアなどアジア各国からたくさん参加していた。わたしたちはBankARTブースからの紹介作家として参加し、セロテープの影を拡大投影して、月の表面に見立てた作品などを展示していた。そこへBankARTとかねてから交流のあったキム・ソンヨン氏が訪れた。そのときにキム・ソンヨン氏からピョンチャンビエンナーレの概要を聞いた。タイトルは「The Five Moons」、これはビエンナーレが開催される土地に伝わる民話から来ているという。キーワードはeveryday life... などなど。Moon!!!! everyday life!!! こうして私たちは幸運な出会いをした。それから一ヶ月後に正式にビエンナーレ参加の依頼を受け、セロテープを月に見立てた作品を「Five Moons」に合わせてインスタレーション作品として計画した。その後、BankARTの交流プログラムによりTAVにふたたび滞在制作することが決まり、ビエンナーレの準備に存分に打ち込むことができた。台北には当初9月末までの滞在予定だったので、TAVスタッフには「次はどこに行くか決まった?家がないんでしょう?」とたびたび心配されていたが、9月末までの滞在予定が11月末までになり、また翌年にも戻ってくるようになるなんてあのときはまだ誰も知らなかった。台北-横浜-韓国のアートネットワークの波に乗れた幸運な流れだった。』

図書室(Cafe Lib)を一般開放します。

いつもは夜、BankARTスクールを行っている場所ですが、4月から、ご自由にご利用いただけるようになりました。ご利用に際しては、登録制になりますが、皆様お気軽にご利用ください。

利用時間 月曜~日曜 11時~18時45分

編集後記

□「ニュースの時代」が続いている。イスラム国、EU離脱、豊洲、トランプ、北朝鮮ミサイル、森友問題……。めまぐるしく変化する一方的な情報。福島や沖縄のことが、どんどん忘れられていく。大切なことを防備録にいくら記しても下層に沈んでしまい、デスクトップ(日常)にはでてこなくなる。

□一方、BankARTといえば、展覧会の開催、寺子屋、出版、国内外での制作活動のサポート、一杯350円のお酒……。という相変わらずの日常。八百屋のようなメニュー。大根がいいときは大根を売る。でもときには西瓜もね、というのが大きな方針だ。このニュースは、そんな日常の大切なことを書き留めたものだ。

BankART 1929 office (BankART Studio NYK)
〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9
TEL 045-663-2812 FAX 045-663-2813
info@bankart1929.com www.bankart1929.com